

# HDとCAPDにおける破壊性脊椎 関節症(DSA)の発症要因

研究分担者：虎の門病院 高市憲明

目的: 共通の時代背景を有する血液透析(HD)患者と腹膜透析(CAPD)患者のDSA発症頻度と要因を明らかにする。

方法: 1994年から1998年の間に当院にてCAPDまたはHDを開始し同じ透析方法を継続し10年以上の経過を観察できるHD18例、CAPD6例の経過を検討した。

## 結果:

	HD 18名	CAPD 6名	
DSA発症数	0 (0%)	3 (50%)	
年齢	61.0±7.1	52.8±5.4	P<0.05
血清β2MG1, mg/l	33.1±6.1	41.4±5.5	P<0.01
血清UN, mg/dl	59.3±17.6	64.1±13.8	ns
血清Cr, mg/dl	10.7±2.5	12.4±2.5	ns
血清総蛋白, g/dl	6.8±0.6	6.6±0.5	ns
血清アルブミン, g/dl	3.2±0.3	3.0±0.1	ns

## 解説

1. 高齢であることは透析アミロイドーシスの発症要因だが、平均年齢の低いCAPD患者でのみDSAが発症した。
2. 血清タンパクやアルブミン濃度に差は認めず、栄養状態は同等と考えられ、その状況で血清UNやCrに差を認めなかった。
3. 血清β2MG濃度はCAPD患者で高く、透析アミロイドーシスの発症要因と考えられた。